

Flair

Magazine of Teikyo
Alternative Life

[フレア]

vol.118 JULY
2020 SUMMER

TAKE FREE

みんなが気になるコト、
たくさん載ってます。

Magazine of Teikyo
Alternative Life
Flair
[フレア]
TAKE FREE

新入生
必見!

なよフレア
にこって
??

PRESENT

アンケートに
回答した方の中から抽選で
Amazonギフト券
5,000円分
プレゼント!

➡詳しくは裏表紙にて

新入生のみなさまへ

帝京大学 学長 沖永佳史

新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます。帝京大学の学長として、また、教職員一同を代表しまして、心からお祝いを申し上げます。

みなさまは、これからの大学生活におけるさまざまな学修を通して多様な経験をし、近い将来に社会へと巣立っていけるようになりますが、充実した生活をおくることができるよう、本学として可能な限りの努力を払うつもりです。その一方で、自らの力で悔いのない学生生活、そこに横たわる大切な時間をつかんでいただくために、心の中に留め置いていただきたいことを申し上げます。おきたいと思えます。

帝京大学は、建学の精神を「努力をすべての基とし偏見を排し、幅広い知識を身につけ、国際的視野に立つて判断ができ、実学を通して創造力および人間味豊かな専門性ある人材の養成を目的とする」としており、この精神に基づいた教育活動を展開するための基盤として「自分流」という教育理念を掲げています。

これは、帝京大学における学びを通じて自らの個性や特性を見つけて出して磨き、それを可能な限り自らの手で生かすことで社会への貢献を果たしていこうという考え方です。この実現には努力

りすることです。これは、教室における講義を通じて先人が残した知識や人間が持っている特徴と性質、即ち人間自身の在りようについての知見を得ることや、スポーツなどを通じて心身を鍛え修養することで獲得するのみならず、実社会における活動の中で垣間見られるさまざまな事柄を、自分が持っている知識と照らし合わせ、それを持ち合わせていない場合は謙虚な姿勢で調べ、自ら考え抜き試行錯誤しながら実際に行動してみることで身につくものであります。これは教養と呼ばれるものであるかと思えますが、これから出会う仲間とともに、重要な目標の一つとして設定していただきたいと思っています。

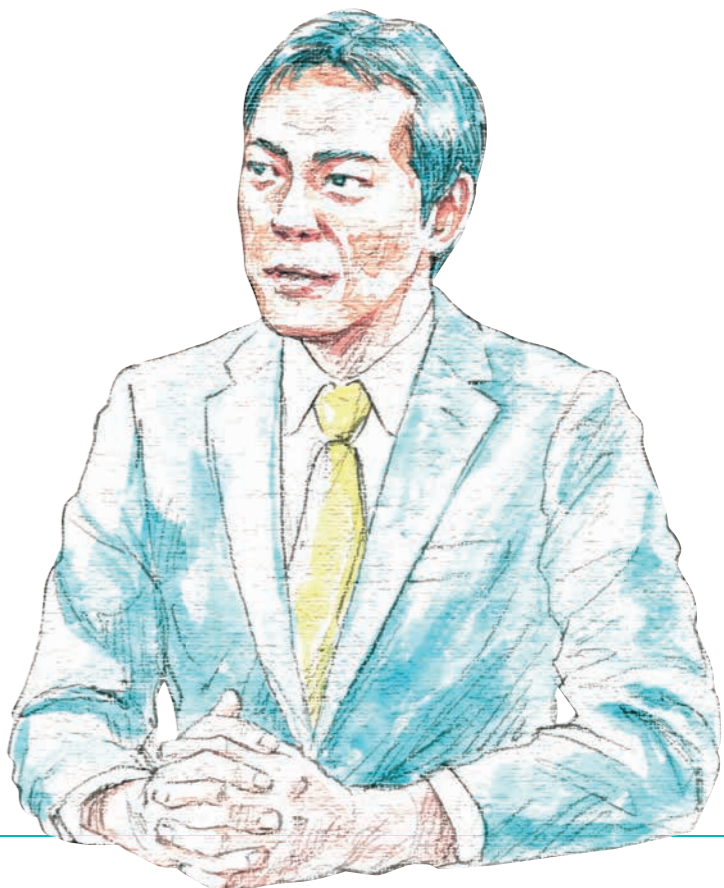
この基盤が、更なる専門的知識を獲得し、自立を深め自らを生かし、他の人と連携して何かを行う上で重要な素養となり、ひいては社会を動かす大きな力となります。

日本は少子高齢社会が訪れ、この豊かな社会を維持するためにさまざまな問題を解決していかなければならない状況にあります。

人間の役割とは何であるのかを、

改めて捉えて行かなければ

ならない時代となっています



と訓練が必要ですが、その積み重ねの結果として、自ら立ち自ら律することのできる人間へと成長し、社会の一員として協調性をもちつつ自らの行動に対して責任を取ることができるようになると思えます。つまり「自分流」とは、崇高なる人格を伴いつつ、多様な可能性がほとばしる人間としての姿であり、単に身勝手な行動様式を取ることは全く違うということを認識していただきたいと思えます。

みなさまはこれから各専門領域における知識を得る学修課程に入りますが、ここでもう一つ申し上げておきたいことがあります。それは、専門領域における知識を身につけ社会で活用できるようにするために、物事を高度に学ぶための基本的姿勢を改めて深掘りすることです。日本が持つ文化的な資源を活用することで人や資本の行き来を活発にし、大都市のみならず地域の経済を活性化させることや、日本が培って来た産業に新たな仕組みを取り入れることで構造転換を起し、現代社会に適用できるものに変化させることは必須であると考えます。また、AIなどの新しい技術が出現し、人間の仕事が機械に置き換わる可能性が広がる中で、年齢を問わず人間の役割とは何であるのかを、改めて捉えて行かなければならない時代となっています。これは日本以外の国でも起こりうることであり、長期的な将来における人類の共存共栄を考えればなおさらです。だからこそ、専門的知識とともに社会的状況を捉え、自らをどのような方向へと導くべきなのかを想像し、必要な行動を起こすための基盤が力を発揮する時代なのです。

最後になりましたが、大学生活を終える時点で、どのような自分を築いて社会に出ていくかを考え、豊かで充実した学生生活を送っていただきたいと思えます。大学生活における時間は決して長くはありません。私たち教職員もみなさまの将来が輝くものになるよう、本学が創立50周年を迎えたことを契機に掲げた、「歴史をしのぐ未来へ」というスローガンのもと、みなさまと共に力強く進んで参りたいと考えております。

どうか、入学を迎えられた日の緊張と感激を胸に精進を重ね、心身ともに健やかに過ごされますことを心から念じまして、私の挨拶いたします。ご入学おめでとうございます。



本文章は沖永佳史学長のメッセージを編集しております。メッセージの全文は左記のQRコードより、動画にて視聴いただけます。



ときどき家に届くけど...

SPECIAL FEATURE

WHAT'S "FLAIR"??

“フレア”ってなに？

いまから13年前にはじまった『フレア』は、才能やひらめきという意味を持っています。大学の中にある情報を伝えることはもちろん、大学の外にある情報でみなさんに知ってほしいことも伝えてきました。すべてはキャンパスライフを最大限に楽しんでもらうためです。知れば知るほどお得なことは、たくさんあります。これからも『フレア』を活用してもらるように、5つのキーワードで『フレア』を紹介します。

photo: Kenji Nakata (04~05)
illustration: Kyonosuke Takayasu (08~11)



① フレアは学生の本音。
② レッツチャレンジ！の心。
③ アツと驚く学生の本音。
④ トップ・オヴ・ザ・ワールドに近づく。
⑤ 日々の生活に役立つ。

フレアを紐解く5つのキーワード。



2018 SUMMER
誌面をリニューアル!

2015 WINTER
記念すべき100号目!

2010 SUMMER
特別号は海外でも取材!

2007 SPRING
Flair 創刊号!

2005 SUMMER
Flairの前身「Self」

1984 SUMMER
学内誌のはじまり! 「THE TEIKYO」



バックナンバーはこちらからご覧いただけます。
帝京大学 広報誌



HISTORY フレアのレキシ。
学内新聞「THE TEIKYO」から学内広報誌「Self」に変わり、2007年に現在の「Flair」にリニューアル。これまでの13年間で53冊が発行されている。



ウクレレ

ハワイ発祥の弦楽器、ウクレレ。「完璧を求めない楽器」に心が和らぐ。(Flair vol.86掲載)



ライブペイント

即興で絵を描く。意味を問わないことで、絵に対する考え方が変わる。(Flair vol.81掲載)



落語

落語ができるアイドル、田代沙織さんのガイドで伝統芸能が身近に。(Flair vol.104掲載)

ボルダリング

身近で手軽。だけど日常にはない興奮と達成感が潜んでいることに気づく。(Flair vol.98掲載)



FLAIRの

L

こんなこともできる！ 授業外でも積極的に 体験して、“わかる”こと。

レッツチャレンジ！
の心。

「Flair」ではこれまでにさまざまなワークショップを開催。「自分でもこんなことができる」と気づきを得た学生の姿を伝えてきた。



手打ちうどん

本格的にこだわるほど時間も手間もかかるが、できあがりの特別さを知る。(Flair vol.89掲載)



BEAN TO BAR

豆の焙煎から全工程を一貫して行うチョコレート作りで、既成概念を覆す。(Flair vol.96掲載)



紙飛行機

制限を設けた紙飛行機作り。簡単そうに見えて、知識と技術が重要になる。(Flair vol.113掲載)



サイクリング

ロードバイクで長距離ラン。達成感を重ねることが、今後の挑戦につながる。(Flair vol.107掲載)

“自分流”を楽しく体感できる場として

須藤亮
「Flair」初期編集担当

「Make something from nothing (何もないところから、新しいものを作り出そう!)」というDIYなコンセプトのもと、vol.76からスタートしたFlairのワークショップ。普段の学生生活だけでは味わうことのできないさまざまな「体験」を通して、自分の中の新しい感性に気がついたり、多様な価値観を感じるきっかけになったり。それこそが、帝京大学が教育理念に掲げる“自分流”を楽しく体感できる場になると考えました。



第1回目は「写真家 平野太呂さんとジン(写真集)をつくらう」。自由な発想でモノづくりの楽しさを味わった。



おいしい料理を作って待ってるよ



フツウはフツウじゃない!

Flair編集部が選んだ 帝京大学のココがスゴイ!

気軽にお話ししましょう!



SELECTOR:
渡里友子 (Flair歴1年)

1 [大学祭実行委員]がスゴイ!

「大学祭実行委員」がスゴイ!
多いキャンパスでは100人規模の団体を自分たちでまとめあげる、それぞれの熱意と工夫が素晴らしいです。(Flair vol.112掲載)

2 「レッドプロジェクト」がアツい。
応援する側とされる側、立場は違うけれど想いをひとつにする活動を学生主体で行っているのはスゴイです!(Flair vol.117掲載)

3 「ACLS研究会」の重要性。
授業外でACLS(二次救命処置)等の技術や知識の習得をめざすサークル。医療職を志す学生が所属しています。(Flair vol.115掲載)

SELECTOR'S VOICE:
「学生たちが自ら行っている活動に驚きました」
サークル活動も含めて、学生主体の活動はさまざまあると思うのですが、やはりそこで感じる学生の熱意は何よりも輝いています。

SELECTOR:
永尾智憲 (Flair歴10年)

1 [ACT3]に感動!

「ACT3」に感動!
八王子キャンパスのソラティオスクエア内にある新しい学びの場「ACT3」の構造には感動しました!(Flair vol.111掲載)

2 「MELIC」は刺激的。
MELICの推進する「共読ライブラリー」は、本を通じたコミュニケーションとして最適です!(Flair vol.101掲載)

3 「ソラティオキッチン」のありがたさ。
学食はキャンパスライフにとって重要なもの。シェフの作るおいしいメニューが、純粋にうらやましいです!(Flair vol.111掲載)

SELECTOR'S VOICE:
「目に見えて、さまざまな施設が充実してきた」
ここ数年での施設の進化は目覚ましく、活用すればするほど充実したキャンパスライフを過ごせると思うので見逃さないでほしいですね。

SELECTOR:
梶山春菜子 (Flair歴3年)

1 [国際交流]が活発!

「国際交流」が活発!
多くの外国人留学生を受け入れている帝京大学。留学経験者同士の座談会には国際交流の魅力が詰まっていた。(Flair vol.95掲載)

2 「全員留学制度」で世界を体感!
外国語学部では2年次に全員が留学する制度があります。大学の本気度を感じました。(Flair vol.114掲載)

3 「TeLaCo」のあたたかさ。
学内留学といえば八王子キャンパスにある語学学習支援スペースの「TeLaCo」。いつも笑顔が溢れています。(Flair vol.117掲載)

SELECTOR'S VOICE:
「国際性を重要視して、施設も制度も充実している」
大学卒業後に語学を勉強しようと思ったときには、きっとお金を払ってでも通いたくなるほど充実した環境だと思います。

もっと活用したい、充実の学内環境。

当たり前になったことを新鮮な目線で伝え直す



応援でひとつになろう!

「それは本当にすごいことだよ!」と声を大にして伝えたいことは学内にたくさんある。例えば八王子キャンパスのソラティオスクエアをはじめとする各キャンパスの施設の充実っぷりは目覚ましい。もちろん施設だけではなく、国際交流を促す多様な留学制度や、学生主体で行われている「レッドプロジェクト」(ラグビー大学選手権・箱根駅伝応援プロジェクト)など、キャンパスライフを充実させるさまざまな制度や活動が存在している。しかし、学内にあるといつのまにか当たり前の風景になっていたり、身近にあるのにまったく知らなかったりすることもめずらしくない。ましてや他キャンパスのことを知る機会が少なからず少ない。学内の「スゴイ」を伝えることは「フレア」の醍醐味の一つだ。

VOICE 03: 大学祭にホンキ!

UNIVERSITY FESTIVAL

「みんな仲がいいので、例えば
テントの設営ひとつとっても、
その間に交わす
会話が楽しいんですよ」



加藤誠也さん | 経済学部観光経営学科3年(当時)

大学祭実行委員の苦勞は山ほどある。それでも「日々の何気ない出来事が楽しい」という理由ひとつで頑張れることを語ってくれた。(Flair vol.112掲載)

VOICE 05: 車両製作にホンキ!

MACHINE MAKING

「楽しいです。
ものづくりは、
超楽しい」



「帝京フォーミュラプロジェクト」に所属する隼さんのシンプルな言葉には、すべての原点となる大切な思いが込められている。(Flair vol.113掲載)

隼 意頼さん

理工学部
機械・精密システム工学科2年(当時)

VOICE 04: 宇宙にホンキ! AEROSPACE

「野球の練習中って、
地面を見るか、空を見るかの
どちらかじゃないですか。
僕は、空を見ている
ほうがいいなと
思ったんですよ」



太田雅貴さん
理工学部航空宇宙工学科
航空宇宙工学コース3年(当時)



宇宙を専門に選んだ理由は、かつて野球に熱中していたころのふとした習慣。宇宙システム研究会で夢へ突き進む姿を見せてくれた。(Flair vol.113掲載)

VOICE 06: 医療にホンキ!

MEDICAL TECHNOLOGY

「1秒で結果が変わるので、即座に
判断できるように知識と技術を
身につけなければいけません」



まだまだ数少ない女性の救急救命士をめざすなかで、シビアに自分の使命と向き合い実習に励む姿を見せてくれた。(Flair vol.115掲載)



宮園遥さん
福岡医療技術学部
医療技術学科救急救命士コース3年(当時)

VOICE 01: 医学にホンキ!

MEDICAL SCIENCE

「祖父が肺がんを患い、生きる気力を
失いかけたとき、堅実な診療と
やさしい言葉で励ましてくださるお医者さんの
姿を見て、医師になろうと決めました。

プライマリ・ケアや在宅医療の現場で
患者さんの心に寄り添える医師になりたいです」



祖母の看病をきっかけに総合心療内科の医師をめざし、JIMSA(日本国際医学ESS学生連盟)や研究室に所属。忙しくも充実した毎日を教えてくれた。(Flair vol.106掲載)



竹田七海さん
医学部 医学科3年(当時)

VOICE 02: ボランティアにホンキ!

VOLUNTEER

「医療人だからこそ
ボランティアを行っているのです。
将来、病院に勤務すれば、
自分のことより患者さんのため、
病院のために力を尽くす場面があるはず。
『誰かのために動く』ことの
大切さや素晴らしさを、
僕たちは活動を通じて
学んでいます」



矢ヶ部駿真さん
福岡医療技術学部
医療技術学科臨床工学コース2年(当時)



地域の防犯活動を行う「安心安全でいきよう隊」に所属。「勉強も大変なのになぜボランティアまで?」という問いに真摯に答えた。(Flair vol.109掲載)

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患されたみなさま、および関係者のみなさまに心よりお見舞い申し上げます。また、医療従事者をはじめ最前線でご尽力いただいているみなさまに深く敬意を表し、感謝申し上げます。

めぐるしい状況の中、『Flair』の歴史を振り返ったことで、伝えたいことがより明確になったように思います。それは、帝京大学にはたくさんの魅力があり、そこに通う学生のみなさんに最大限にキャンパスライフを楽しんでほしいということです。またみなさんと取材でお会いできることを楽しみにしています。

Official Instagram

『Flair』の公式Instagramでは、本誌から一部抜粋して大学の情報を発信しています。また、取材や撮影の裏側などもお伝えします!



このネームタグをInstagramでスキャンすると、アカウントをフォローすることができます。

@flair_teikyo_university



制作 Mo-Green
発行 TEIKYO UNIVERSITY
cover photo: Kenji Nakata



ABOUT: "HOBBY"

人生を豊かにするもの

vol.99「今日も明日も、映画。」をはじめ、写真やハンドメイド、旅行など、人生を豊かにするものを特集してきた。

ABOUT: "EAT"

一番身近な生活のはなし

vol.94「カレーが、好き。」をはじめ、食に関わる特集も多くある。誰しもの生活と健康に関わるものだ。



いま気になることは、やっぱり「コロナ以降」?

ウィズコロナ時代は、あえて「引く」エンタメ

コロナ禍では「できないこと」を「どう代替するか?」という発想になりがちです。しかし情報量を「引く」ことで体験者の集中力や想像力を刺激することが、ウィズコロナのヒントになります。

例えば真暗な空間でのグループ体験を提供する「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」。暗闇の中、視覚以外の感覚が研ぎ澄まされ、深い対話が生まれます。はたまた、ロボッ

ト研究者・石黒浩さんが開発したハグビーというロボットは、抱きかかえながら通話ができる通信機用ホルダ付きのクッション型メディアです。利用者に対しては見えないものの、やわらかい端末を抱くことで相手の存在感を強く感じ、想像力がポジティブに喚起されます。するとリアル空間での対話以上に、相手を親密に感じながらコミュニケーションをとることができます。「できない」ではなく「しない」と捉え直す。あえての引き算からウィズコロナ時代の新たなエンタメが生まれてくるでしょう。



飯田一史さん
ライター
マーケティング的視点と批評的観点からウェブカルチャーや出版産業、子どもの本について取材&調査して解説・分析。

FLAIRの I

いま、みんなが気になるコト。

趣味のこと、将来のこと。
学生がイマ気になるホットな話題。

学生生活のヒントとなる学外のおもしろいこと

「フレア」では一見すると大学や学問とは関連が薄い「食」や「アート」や「結婚」といったテーマもたくさん扱ってきた。しかし、どんなテーマも、学生の「生活」とは切り離せないものばかり。だからこそ、大学の外にある情報も充実した学生生活のさらなるヒントになると考え、紹介してきた。「帝京大学に通う学生たちに届ける」という方向性をぶれさせないことで、どんなテーマを扱っても情報は帝京大学の学生に対してカスタマイズされてきた。

例えばvol.99の特集「今日も明日も、映画。」では、映画コメントーターの有村昆さんと「映画研究会」の学生が映画について語り合った。学生自身が話すから、学生が知りたい内容になる。そんなふうにならざるがら学外の情報も積極的に発信している。

ABOUT: "WORK"

近い将来のはなし

vol.89「働く」を考えよう。をはじめ、仕事特集は何度も生まれ、さまざまなモデルケースや考え方を伝えてきた。



ABOUT: "LIFE"

人生に深く関わるもの

vol.73「大切な家族」やvol.84「結婚のはなし。」など、学生時代にはまだ遠く感じられる内容も紹介している。



育成と研究に情熱を燃やす先生たちのこと。

ロマンあふれる教員たち。

『Flair』で紹介するのはもちろん学生だけに限らない。各キャンパスの教員にもスポットライトを当てている。

NAME: 楠直子 教授

CAMPUS: 板橋キャンパス SPECIALTY: 生体分子化学・チーム医療

アルツハイマー病等の疾患原因タンパク質を研究する楠直子教授は、「チーム医療」を実践的に学べる医療系3学部合同授業の運営委員長も務めている。(Flair vol.116掲載)



NAME: 横村浩一 教授

CAMPUS: 板橋キャンパス SPECIALTY: 医真菌学

人の健康を阻害するカビ「医真菌」を研究する横村浩一教授は、菌を生きたまま撮影し「カビのグラビア写真集」を発刊するほど菌に魅せられている。(Flair vol.114掲載)



NAME: 大野雅子 教授

CAMPUS: 八王子キャンパス SPECIALTY: 外国文化・比較文学

平安中期の古典「源氏物語」とイギリスの叙事詩「妖精の女王」を教材に、東洋と西洋の比較で異文化を紐解く大野雅子教授は、真の語学力を教えてくれる。(Flair vol.103掲載)



NAME: 簡井清忠 教授

CAMPUS: 八王子キャンパス SPECIALTY: 近現代日本文化

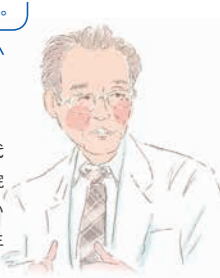
「時代劇映画の思想」(ウェッジ文庫)を著作に持つ簡井清忠教授は、日本文化への理解を深めるには時代劇映画が最適と話す。(Flair vol.99掲載)



NAME: 福田猛 教授

CAMPUS: 福岡キャンパス SPECIALTY: 理学療法・作業療法

理学療法学科長兼作業療法学科長代行を務める福田猛教授は、防災病院の技師長を長年にわたって務めていた。過去の経験を失敗も含めて学生に伝える。(Flair vol.106掲載)



消費者の健康につながる研究

NAME: 古賀仁一郎 教授
CAMPUS: 宇都宮キャンパス SPECIALTY: 食品科学

機能性食品の研究に励む古賀仁一郎教授は、高カカオチョコレートに含まれるカカオタンパク質の便通改善効果について株式会社明治との共同研究を行う。(Flair vol.104掲載)



地方行政に多面的な視点を。

NAME: 内貴滋 教授
CAMPUS: 宇都宮キャンパス SPECIALTY: 地方行政・地方自治

自治省(現・総務省)や道・県庁に勤めた経験を生かして教鞭を執る内貴滋教授は、多角的な視点を持つ重要性をゼミで教えている。(Flair vol.115掲載)



紙飛行機から真髄を学べ!

NAME: 米田洋 教授
CAMPUS: 宇都宮キャンパス SPECIALTY: 航空機力学

NHK総合テレビ「凄ワザ杯 紙飛行機王決定戦」への出演経験もある米田洋教授は紙飛行機作りから学べる飛行力学の奥深さを伝える。(Flair vol.113掲載)



相互理解が語学力UPの鍵

時代劇映画から日本文化を知る

失敗も含めて貴重な経験。

